

○婦中地域タウンミーティング議事録

日 時：令和6年8月25日（日）

午前10時から午前11時00分

場 所：神保公民館

出席者：85人

テーマ1 健康寿命の延伸（福祉保健部）

＜主な説明事項＞

- 1 平均寿命と健康寿命の推移
- 2 富山市健康プラン21（第3次）
- 3 健康寿命の延伸のための市の施策

【福祉保健部の説明に対する質問】

・現在、神保地区の社会福祉協議会では、高齢者の健康のため、近くの公民館で運動指導を受けられるようにしようと取り組んでいます。そこで、講師（運動指導士）の派遣についてお聞きします。いつも西保健福祉センターにお願いしていますが、運動は継続してやらないといけないので、講師に直接、交渉してもいいのでしょうか。ここにアクセスすると講師が来てくれるという情報などを、もう少し「見える化」していただきたいと思います。

（福祉保健部 長寿福祉課長）

通常は、（相談があれば）市から運動指導士を紹介して派遣していますが、もう少し「見える化」できるように検討したいと思います。

・コミュニティーに参加できる元気な人はいいのですが、1人暮らしの人もこれから増えてくると思います。そのため、継続的に歩くことは必要なことだと思います。

それを生活の中に組み込まれるようにするためには、歩いて数分の距離にドラッグストアやスーパーがあればいいと思います。神保地区にもコンビニエンスストアはありますが、肉や野菜などをバランスよくとるためには、そういうものを扱うスーパーやお店が必要です。日常的に通えば、そこで知り合いと出会い、話をする。いろんな食材や商品を見て刺激を受けると思います。四方地区にはスーパーがないので誘致されたと聞いています。健康を維持するために、神保地区にもスーパーを誘致していただけるとありがたいです。

(市長)

自分の足でお店に歩いて行って、自分の目で見て、食べたいものを買ったり、必要な物を揃えたりすることは、非常に大事であると認識しています。富山市では、まちづくりの一環として、買い物不便地に出店したドラッグストア等に補助金を出しています。四方地区のほか、大山の上滝地区でも行っています。どの地域でも、お店があれば住民の利便性が上がるのはその通りですが、民間事業者の利益が出るか、経営を維持していけるかという問題もあります。建設適地はいろいろと調査していますが、地元の皆さんの声を聞いて、真摯に進めていきたいと思っています。

ただ、農地法、農振法、都市計画法など土地利用に関する法律が上位にあって、その下に富山市のまちづくりの計画があります。法律に反してまでやることは非常に難しいということをご理解いただきたいと思います。

・今回のテーマは、健康寿命をいかに伸ばすかということと、健康寿命と平均寿命との差を縮めることだと思います。男性は、健康寿命と平均寿命との差が9歳とのことですが、その差を8歳、7歳に縮めるために、市として具体的に何をするのかという提案があればよいのではないかと思います。

(市長)

今の段階では、一人一人がどのような食生活、運動習慣、生活習慣を身につけれ

ばよいかということを紹介して、それを地区センター等で実践しているというところが現状です。市としてのK P I（重要業績評価指標）や努力目標を設定することは、非常に有用だと思いますのでそちらも考えながら進めていきたいと思っています。

（保健所地域健康課長）

平均寿命と健康寿命の差をすぐに縮めることができるような特別な取り組みは、なかなか難しいと思っています。本日紹介しました、体を動かす、食生活に気をつける、地域の皆様が人と人とのつながりを持って生きがいを持って暮らしていく、そういうことも健康寿命を延ばすためには大変重要だと言われています。1つ1つの取り組みを地道に、着実に取り組むことによって、健康寿命と平均寿命の差が縮まっていくと考えていますので、皆様自身も取り組んでいただきたいと思います。もちろん本市でも、様々な施策に取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

・健康寿命の延伸は、多くの人が望む目標だと思います。「富山市健康プラン 21」では、その目標を達成するための施策として「個人の行動と健康状況の改善」「社会環境の質の向上」「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」を掲げています。この次にもう少し具体的な指標を私たちに提示していただきたいと思います。13年間にわたって取り組んでいく施策なので、取り組み状況や成果を具体的に意識していかないと、難しいのではないのでしょうか。指標があればやりがいにもつながると思います。

また、以前、「コンパクトなまちづくり」を提案されていましたが、郡部に住む私たちにとってどのようなものだったのかお聞かせください。

（市長）

健康づくりの具体的な政策が伝わっていないことは、私たちの努力不足かもしれません。できるだけ皆さんに伝わるよう、市の広報、ホームページ、SNS など、あ

らゆる手段を使ってわかりやすい情報発信をしていきたいと思っています。

富山市が取り組む「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」は、バス停や駅周辺に人口を集中させ、持続可能なまちにしようという政策です。市町村合併をして、富山市の面積は約 1,240 km²、中核市の中で一番広い面積となりました。3 割が平地で、7 割が山間部です。そうすると、例えば市道の総延長は 3,100 km、これは札幌から長野までの直線距離と同じですし、2,000 を超える橋りょう、上水道や下水道があり、すべてを維持管理するには莫大なお金がかかります。このことを、将来世代につけまわしをしないように、効率が良く、メンテナンスのかからないまちを目指して、約 20 年前にコンパクトなまちづくりを始めました。その結果、公共交通沿線のいわゆる居住推進エリアに住む人の割合が、当初は約 28% だったのですが、現在は約 40% まで向上しました。このことで富山市は、日本の地方都市の中で最も成功したと言われている。

私も郊外に住んでおり、郊外と中心市街地とでは、生活の便利さに差があることは否めません。しかし、すべての市民がどこに住んでいても、ある程度便利で豊かな生活を享受できるよう、これからも地域交通や医療、福祉の充実に腐心しながら取り組んでいきますし、市の施設など公共インフラについても、皆さんにとって本当に重要なものは残していかなければならないと考えています。住民の皆さんの意見を聞きながら進めていくことが一番大事だと考えています。

テーマ 2 地域コミュニティの活性化に関する施策（市民生活部）

<主な説明事項>

- 1 富山市の地域コミュニティの現状
- 2 町内会アンケート調査の結果
- 2 地域コミュニティ再構築支援事業の事例紹介
- 3 電子回覧板の活用事例

【市民生活部の説明に対する質問】

(神保地区自治振興会長)

・地域の活性化というのは、地域にとって永遠のテーマです。私は、皆様が地域の環境が少しでも良くなったと感じていただけるよう、1つの事業だけでなく、いろんな事業に取り組んでいくことが必要だと思っています。そのため、神保地区では、福祉や安心・安全などに関する事業、イベントなどを行い、皆様に頑張ってもらっています。しかし、人材、お金、ノウハウなどがまだまだ不足していると感じています。今ほど、地域振興担当職員の配置について説明がありましたが、担当職員を地区に1人配置していただけないでしょうか。また、今後どのように運営していくのか教えてください。

(市民生活部長)

地域振興担当職員の配置は昨年度から始めた取り組みです。昨年度、地域振興担当職員を（行政サービスセンター4か所と中核型地区センター2か所に）配置した際、「何から始めようか」ということで、まずは地域を全部知ること、地域の歴史を学ぶことから始めました。今は、地区センターや自治振興会の会合に必ず出るようにしたり、あるいは課題の発見に取り組んだりしている最中で、かなり細かいところまで地域に入り込んでいます。こうした実績を積み重ねていき、市全体としてどういうあり方がいいのかということは次のステップだと思います。地区に1人ずつ配置してほしいというお気持ちは十分理解できますし、担当部長としては配置したいのですが、なかなか人数が限られていますので、まずはそういった実績をしっかり作っていくことが大事だと思っています。

・昔、神保地区、特に千里駅の前には商店がたくさんあり、にぎわっていましたが、今は寂しい通りになってしまいました。空き家もどんどん増えています。そこで、県内では、南砺市や朝日町などが「地域おこし協力隊」を導入して活性化を進めています。富山市の情報があまりありません。地域おこし協力隊を導入すると、国

から年間 400 万円の予算がでると聞いていますが、なぜ富山市はそれを利用しないのでしょうか。若者や、やる気のある人に来てもらえれば、私たちも刺激を受けて、地域も活性化すると思います。

(市民生活部長)

農業分野における地域おこし協力隊は、すでに富山市内にもおられます。地域コミュニティの分野では、昨年度、八尾地域、山田地域、大山地域小見地区の 3 か所で募集しました。しかし、都会から来る場合でなければ国の補助要件にあてはまらないこともあり、昨年度は決まりませんでした。家族の同意を得られず、参加までいたらなかった方もいました。今年から、山田地域では女性が活動されています。地域の皆さんから本当に大事にされて、今、楽しく、やりがいを持って仕事をされています。ただ、残念ながら小見地区には応募がありません。

全国いろいろなところで地域おこし協力隊を募集していますので、それと募集要項をどう差別化するかということや、やってみたいこととどうマッチングさせるかということが、課題だと思っています。引き続きこの事業は継続してやっていきますので、改めてご意見をいただいたことも踏まえ、募集要項などに反映させていきたいと思っています。

【その他意見交換】

・バスやタクシーの運転手不足が問題となっていますが、婦中地域もコミュニティバスの運転手がなかなかいないということで困っています。高齢化で免許を返納するお年寄りも増えてきます。便利な移動手段について、富山市でもいろいろと考えていると思いますが、婦中地域にはなかなか声がかかりませんので、考えをお話ください。

また、道幅を広くしたり、歩道を作ったりするためには、通学路であることや、災害時に物資を運ぶための道として緊急性を要することなどの条件があります。子どもが少なくなっているのです、そうした条件を満たすことは少なくなっています。

高齢者が散歩をするとき、田舎道なら車はめったに来ませんが、車の量が多いところは、歩道がないと（危険です）。今はなかなか散歩する道がありません。子どもたちに目を向けるのも大事ですが、高齢者に目を向けた道路整備や交通網についても前向きに検討していただければと思います。

（市長）

地域公共交通の一番（の役割は地域住民の移動手段の確保ですが）、自分の家から、ショッピングセンター、駅やバス停までの距離を移動できない方がたくさんいます。歩道の整備は順次進めていますが、なかなか進まないところもあります。計画的に整備を進めてまいりたいと考えています。

運転手不足、2024 年問題がいよいよ顕著となってきた、地鉄バスも減便されています。この問題は、思ったより早く輸送業界全体に広がっています。宅配便については、インターネットで注文して次の日に届いたものが 3 日後に届くということが近い将来、起こります。私たちはそういうことを覚悟した上で生活しなければならんと思います。物が届かないのは我慢できるかもしれませんが、移動できないとなれば致命的ですので、富山市では今、コンパクトシティ政策の公共交通の部分、鉄軌道とバス路線をできるだけ生かしていこうと取り組んでいます。地鉄は民間企業ですので、採算が合わなければ減便することは仕方がない部分もありますが、そうならないように、地鉄と話をしながら進めてまいりたいと思います。

9 月 19 日から 27 日まで、朝日地区センターから国道 359 号を通過して、速星駅、ファボーレを回る「自動運転バス」の実証実験を行います。予約制ですのでぜひ申し込んで、一度体験していただきたいと思います。5 年、10 年後の地域公共交通の一つの姿である「自動運転」を体感できると思います。自動運転を社会実装するためには、道幅の確保や白線の整備なども必要ですし、実験をしないと実装できませんので、もしご要望の地域があれば、ぜひ手を挙げていただきたいと思います。このほか実証実験が実装したものは、大山地域の A I オンデマンド交通、今年度の新たな交通サービスは、八尾地域の環境に配慮した電気バスの導入などがあります。

先進的な取り組みは他市に先駆けて力を入れて行っていますが、まだまだスピード感がない状態です。皆様から要望があれば、ライドシェアなどその地域に合った形で、しっかり取り組んでまいりますので、声を聞かせていただきたいと思います。

※発言の一部を整理して掲載しています。(広報課)